

高雄日本人学校の風

校長 高口和治

日曜日の夜にドラゴンボートの予選会がありました。月曜日も予選会2があり、13秒差で予選敗退でした。3分～4分のレースで13秒差、来年こそは・・！！！！

日曜日でも月曜日も多く子ども達や保護者の方の応援を得て力が湧いたようです。(湧いたようですというのは、本番では、私は監督業をしていて、漕ぎませんでした。)ありがとうございます。

国際チームの枠での出場です。中山大学のチームともやったのですが、んー、筋肉もりもりの方が何人もいて、やる気はみなぎっていたのですが、スタートダッシュで差がつき、そのままというのが実際でした。でも、13秒というのはすごい。

正直、500mのコースで半分も行くと、漕ぐのがいやになってしまいます。つかれてくると、前後の漕ぎ手のオールの入水がちょっと狂うと、水しぶきが上がり、口の中に愛河の水を含んでしまったり、全身が愛河の水まみれになったりと大変なのです。

しかし、ボートから上がってきた選手をみると、満足感というか疲れというか、でも、きっと満足感だったと思います。

6月10日(月)

査定授業第2弾。4年生で算数の授業を菅原先生がしました。内容は、図形の領域で、「図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目し、図形についての理解を深める」「直線の平行や垂直の関係について理解すること」「平行四辺形、ひし形、台形について知ること」

まず、授業は、「規則的にならんだ点に直線を引いていろいろな四角形を作ってみよう」と始まりました。

また、直角がある四角形の直角の部分に直角マークをつけよう、と働きかけました。実際の授業では、直角でないところにも子どもたちは直角マークをつけていました。そこで、菅原先生は、確かめる方法を確かめていました。確かめるには、分度器や三角定規になります。

ここで大事になるのは、「ぱっと見て、直角だと思って直角マークをつけたこと」これそのものは、数学では大事です。「直感力」といいます。数学では直感力(本質を見抜く力)を鍛えていかないと、証明する行為を大人になってもやはり出来ない人になってしまいます。他の教科でも仮説をつくり、それを証明していくという理科や社会科の基礎にも

なっています。保護者の皆様が算数は基礎的な計算ができればいいと思っていたとすると、これは、大きな誤解です。様々な教科の基礎になる教科なのです。『直感でわかる数学』岩波書店 から出ているくらいです。数学は、論理的に考えると共に直感が必要ということなのです。

6月12日(水)

端午節で休み。

6月13日(木)

査定授業第3弾。吉本先生が中3で社会科を行いました。基本的人権の尊重を扱うものです。この時間は、特に、人が生まれながらにして持つ権利について考えさせる時間でした。授業の構成としては、子ども達がまず事前に「人権が侵害されているかも知れない事例」を挙げ、それをもとに授業が展開されていきました。具体的には、「公共施設に盲導犬は一緒に入れるが、ペットの犬は一緒に入れない」「運動会で、男子は100メートル走り、女子は80メートル走る」「ランドセルは、男子が黒色で女子は赤色が多い」「18歳未満はみることが出来ないのに、18歳以上はみることが出来る映画がある」「男子はスカートをはいてはいけないが、女子はスカートでもズボンでもいい」で話合いました。

公民は時数の割に覚えることが多いのです。「人権は尊重しなくてはならない。生存権は、憲法25条に書いてある。環境権やプライバシーに関わって、新しい人権も言われている。」というのが一般的な授業になります。子どもにとって、この授業は、はっきりとしなかった授業かもしれません。でも、はっきりこうだ、という社会的事象の方が少ないでしょう。そこで、どうだろうか、ああだろうかと考えて結論を出していくのが本当の社会科だと思います。「基本的人権の尊重」という言葉は知らなくてはなりません。このようなことを基礎的事項といいます。でも、本当に大事なものは、その中身の吟味です。

火曜日に学校運営委員会がありました。保護者代表として会長、副会長が参加しています。学校移転についての話が中心になっています。中正国小に台湾政府からお金が下りてきて初めて耐震工事が始まります。学校としては、下りてくるのは確実なので、入札の準備をすすめているということです。また、耐震についても、日本の大手ゼネコンに日本の耐震基準に合わせてどうかという問い合わせをしていました。耐震工事をすれば日本の耐震基準に見合う強度を得られるという回答をいただいています。説明に専門用語がならんでいたので、しろうともわかるように（これがかなり難しい作業のようです）お願いしている最中です。7月中旬には耐震工事が始まるようです。7月初旬には見学会を開催する予定です。

